

- 北陸新幹線沿線5エリア(6都市)で電動アシスト自転車838台・サイクルポート165か所を運営中。2023年度の累計利用回数は約34万回を記録。
- いずれの自治体も公共交通の一つとしてシェアサイクルの導入・運営を決定。

					
事業主体	石川県金沢市	石川県小松市	福井県福井市	福井県敦賀市	長野県 上田市・千曲市
担当部署	歩ける環境推進課 →交通政策課	観光交流課	自転車利用推進課	観光交流課 →交通政策課	都市計画課・観光課
自転車台数	500台	65台	102台	81台	90台
サイクルポート	77か所	25か所	19か所	15か所	29か所
事業期間	R2.3.1-R7.3.31 (R7.4.1~継続)	R5.3.5-R10.3.31	R5.3.1-R9.3.31	R2.4.1-R7.4.30	R3.7.1-R3.12.19 R4.7.1-R4.12.18 R5.4.1-R5.12.17 (R6.3.20~本格実施)
	5年間	5年間	5年間	5年間	3年間(社会実験) →単年度更新
利用回数 (2023年度)	298,521回	7,077回	10,970回	10,972回	12,230回

転載不可(© 3/10/2025 Nihonkai Consultant Co.,Ltd)

R6.3.31現在/システム提供はすべて㈱ドコモ・バイクシェア



金沢市公共シェアサイクル「まちなり」

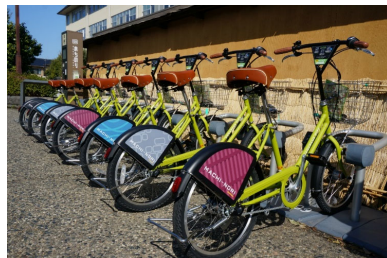
2



◆目的

- ①金沢駅からの二次交通の充実
- ②市民や来街者の回遊性の向上
- ③まちなかの賑わい創出

▼まちなり (2012.3.24~2020.1.13)



▼まちなり2.0 (2020.3.1~2023.3.30)



転載不可(© 3/10/2025 Nihonkai Consultant Co.,Ltd)

金沢市公共シェアサイクル「まちなり」

3

「まちなり」 = 「街の利」

(人やまちにたになるモビリティ)

自転車で金沢のまちを体感

- 単なる移動手段ではなく、人々に愛され、街の元気につながる仕組みづくりが大切
- 人と人、人と街をつなぐコミュニケーション・ツールとして、様々な「つながり」をデザイン
- まちなり事務局：金沢の新たな情報交流拠点としての役割
- 北陸・金沢を拠点とする建設総合コンサルタントとしての技術やノウハウを活かし、官民連携で魅力ある地域づくりに貢献



転載不可(© 3/10/2025 Nihonkai Consultant Co.,Ltd)

実施主体：金沢市

日本海
コンサルタント

- まちなり運営事業者
- 利用者満足度95%超
- 都市・交通の技術的知見
- 地元金沢のネットワーク



ドコモ
バイクシェア

- 国内最大の通信事業者
- 累計利用回数1億回超を誇る利用回数日本一のシェアサイクル事業者

第2期まちなり 【期間】2020年3月1日～2025年3月30日まで

利用人数：113万人超／利用回数：184万回超
多くの市民や来街者の移動を支える公共交通の一翼に

第3期まちなり 【期間】2025年4月1日～2030年3月31日まで

転載不可 (© 3/10/2025 Nihonkai Consultant Co.,Ltd)

● 全国260万人超の登録者が「まちなり」を利用可能

- ドコモバイクシェアは全国59エリアでサービスを展開。
- 全国260万人を超える利用者が日ごろ使用しているユーザーIDのまま新たな登録不要で「まちなり」を利用可能。
- 金沢で登録したユーザーは、他都市のドコモバイクシェアを新たな登録不要で利用可能。



日本海コンサルタント
運営サービス

転載不可 (© 3/10/2025 Nihonkai Consultant Co.,Ltd)

※2024年9月末時点



金沢市公共シェアサイクル まちなり事務局

所在地	〒920-0852 石川県金沢市此花町3-2 ライブ1ビル 1F
連絡先	TEL:076-255-1747／FAX:076-255-1757
営業時間	9:00～18:00(年末年始は休業、メンテナンス等による休業あり)
サービス	登録・利用案内、観光案内、コールセンター、ヘルメット貸出、レンタサイクル(BYUUN/Carippa)、手荷物預かり・手荷物配送(ラゲッジムーバー)、ベビーカーレンタル(ベビカル) …など

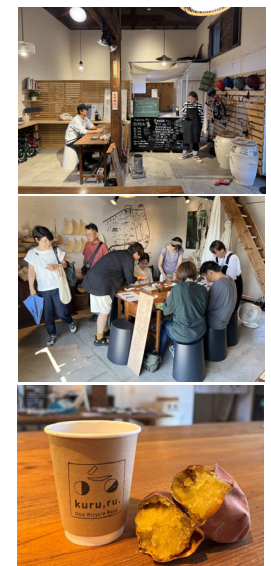
転載不可 (© 3/10/2025 Nihonkai Consultant Co.,Ltd)

Kuru,ru./大野バイシクルベース

- 金沢港エリアの新たな交流拠点として、2021年4月～開設。
- 地産地消をコンセプトとした「つぼ焼き芋」や折り畳み自転車プロンプトを活用したレンタサイクル、自転車をモチーフとしたオリジナルグッズの販売、地域イベントとの連携、御縁のある各地域とのコラボレーション(戸倉上山田温泉、長門湯本温泉ほか)などを実施。
- いしかわ里山里海サイクリングルートのサポート施設に指定。



転載不可 (© 3/10/2025 Nihonkai Consultant Co.,Ltd)



「まちのり」の位置づけ

転載不可 (© 3/10/2025 Nihonkai Consultant Co.,Ltd)

8

- 金沢市では、「第3次金沢交通戦略」(令和5年3月策定・令和6年9月変更)において、「歩行者・自転車・公共交通優先のまちづくり」を掲げ、公共シェアサイクル「まちのり」を公共交通の一つに位置づけている。

第3次金沢交通戦略が目指す姿

【基本的な考え方】

- 歩行者・自転車・公共交通優先のまちづくり
- 交通から暮らしの質やまちの魅力を高めるまちづくり

地域の实情に合わせた柔軟な移動手段の確保

- 地域実情に応じて、住民が地域の病院・スーパーに必要用車なしでも行ける
- 地域実情に応じて、住民が地域の病院・スーパーに必要用車なしでも行ける
- MaaSによりスムーズな移動手段を確保



「まちのり」の位置づけ

転載不可 (© 3/10/2025 Nihonkai Consultant Co.,Ltd)

9

- 金沢市では、「金沢市自転車活用推進計画-かなざわ快適創出サイクルプラン-」(令和2年3月策定・令和6年度見直し中)を策定し、Bicycle Urbanismを展開。

【はしる】安全で快適な自転車通行環境を創出する

- 安全で快適な自転車通行環境を創出する
- 安全で快適な自転車通行環境を創出する

＜方針1＞自転車通行空間整備の推進

- (1) 自転車ネットワーク路線における自転車通行空間整備の推進
- (2) 近隣市町との広域ネットワークの形成

＜方針2＞自転車事故多発箇所における交通安全対策の推進

- (1) 道路表示や看板設置による交通安全対策の実施

＜方針3＞自転車通行空間整備済み路線におけるフォローアップの実施

- (1) 整備効果の検証や路面表示の更新

【とめる】便利で使いやすい駐輪環境を創出する

- 便利で使いやすい駐輪環境を創出する
- 便利で使いやすい駐輪環境を創出する

＜方針1＞駐輪場の利用環境の向上

- (1) 駐輪場に応じた駐輪場の整備や機能の拡充、適正利用を促進するとともに、自転車と公共交通との連携を強化することで、駐輪場の利便性向上を図ります。
- (2) 駐輪場への適切な案内の充実
- (3) 防犯カメラの設置促進、LED 照明への更新
- (4) 多様な駐輪ニーズへの対応

＜方針2＞長期駐輪及び路上放置対策の強化

- (1) 長期駐輪の防止対策
- (2) 巡回指導の強化
- (3) 放置駐輪の多い場所での自転車等放置禁止区域拡大の検討
- (4) 今後の社会情勢を考慮した駐輪場管理費削減や有効化の検討

＜方針3＞新たな駐輪施設の整備

- (1) サイクルライドの促進
- (2) 駐輪場需要に応じた駐輪場の整備

【まもる】自転車のルール遵守・マナー向上を図る

- 自転車のルール遵守・マナー向上を図る
- 自転車のルール遵守・マナー向上を図る

＜方針1＞ライフステージ別の交通安全教育の充実

- (1) ライフステージ別の交通安全プログラムの確立
- (2) 子どもや高齢者を対象とした交通安全教育の実施
- (3) 交通安全教育の継続実施
- (4) 関係団体との連携による周知啓蒙の実施

＜方針2＞自転車損害賠償保険の加入及びヘルメットの着用促進

- (1) 自転車損害賠償保険の加入促進及び加入状況調査の実施
- (2) ヘルメットの着用促進

＜方針3＞来賓者、外国人へのルール遵守・マナー向上の啓発

- (1) 来賓者、外国人への安全教育の実施

【いかしひろめる】誰もが気軽に自転車を活用できるまちづくりを推進する

- 誰もが気軽に自転車を活用できるまちづくりを推進する
- 誰もが気軽に自転車を活用できるまちづくりを推進する

＜方針1＞市民の健康的なライフスタイルの実現に向けた自転車の活用促進

- (1) 健康増進や環境負荷低減につながる自転車活用の促進
- (2) 通勤での自転車利用の促進
- (3) イベント時における自転車利用の促進

＜方針2＞観光や暮らしの賑わいのための自転車の活用促進

- (1) サイクルツーリズムの推進
- (2) サイクリスト受入環境の整備

＜方針3＞シェアサイクル「まちのり」の利用促進

- (1) まちのりの利用促進
- (2) まちのりの運行データを活用した利用促進
- (3) 広域連携の検討

＜方針4＞災害時における自転車の活用

- (1) 災害時における自転車の活用

＜方針5＞自転車活用のための情報の発信

- (1) ホームページなどによりわかりやすい情報の発信

＜方針6＞サイクルアクティビティの普及促進

- (1) サイクルアクティビティの普及促進
- (2) 多様な自転車の活用促進

「まちのり」の経緯

転載不可 (© 3/10/2025 Nihonkai Consultant Co.,Ltd)

10

社会実験による事業性の確認

2008年12月：金沢魅力発信行動計画(自転車施策の明示)

2010年8月21日～10月20日：まちのり社会実験の実施

計画づくり事業内容確定事業者選定システム構築設計・施工

2011年3月：金沢市まちなか自転車利用環境向上計画の策定

2011年5～9月：プロポーザルによる事業者の選定①

2012年3月24日：第1期まちのりスタート

管理運営顧客対応利用状況把握付帯事業

2015年3月：北陸新幹線金沢開業

2017～2018年度：まちのりのあり方検討委員会

2019年5～8月：プロポーザルによる事業者の選定②

2020年1月13日：第1期まちのり終了

サービス規模拡大電動アシスト導入MaaSの展開ビッグデータ分析エリア拡大実験市民利用の増加サービスの定着

2020年3月1日：第2期まちのりスタート

2020～2021年度：新型コロナウイルスの世界的感染拡大

2023年度：まちのりのあり方検討委員会

2024年3月：北陸新幹線敦賀開業(金沢～敦賀間の延伸)

2024年5～8月：プロポーザルによる事業者の選定③

さらなるサービス拡充

2025年4月1日：第3期まちのりスタート



第2期「まちのり」の概要

転載不可 (© 3/10/2025 Nihonkai Consultant Co.,Ltd)

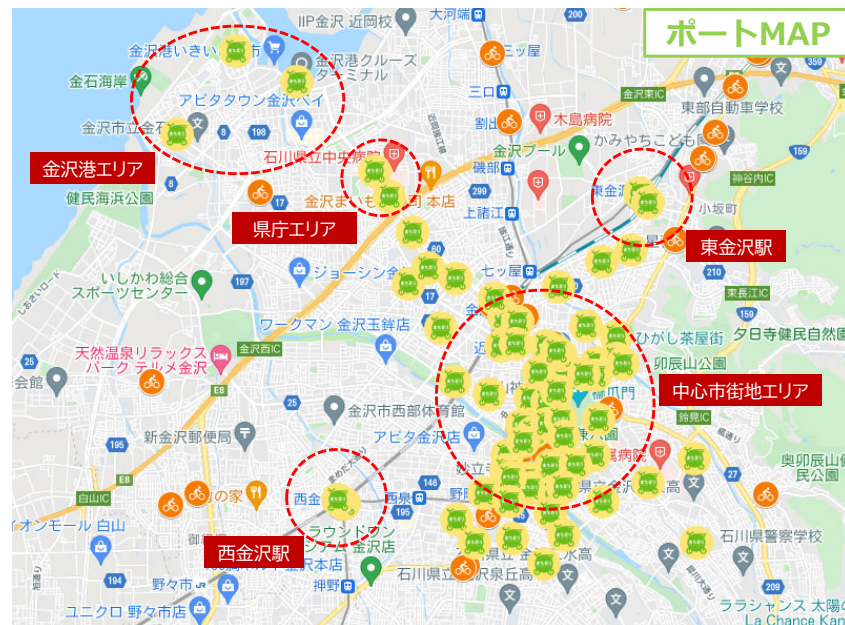
11

第2期まちのりの大幅なグレードアップ

	第1期まちのり	第2期まちのり
イメージ		
システム	ポート型	車載型
自転車	一般車	電動アシスト自転車(シェアサイクル専用車)
サイクルポート	電源や工事が必要	電源や工事が不要
事業規模	ポート21箇所・自転車155台	ポート71箇所・自転車500台(2022年8月末)
サービスエリア	中心市街地の一部のみ	中心市街地全体・近郊
料金体系	乗継無料方式	都度課金方式
利用可能時間	7:30～22:30	0:00～24:00(24時間)
GPS	なし	あり
運営体制	日本海C+ペダル	日本海C+ドコモバイクシェア+NTTドコモ
利用者	金沢で登録した人のみ利用可	金沢での新規登録者だけでなく、首都圏など全国130万人超の既存登録者が新たな登録不要で利用可

第2期「まちのり」の概要

転載不可 (© 3/10/2025 Nihonkai Consultant Co.,Ltd) 12



第2期「まちのり」の概要

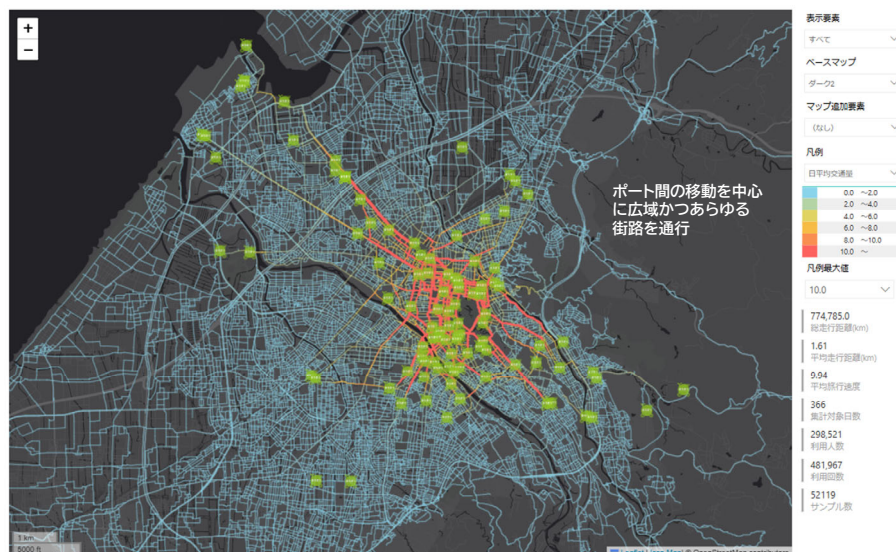
転載不可(© 3/10/2025 Nihonkai Consultant Co.,Ltd) 13



ビッグデータの取得・分析

転載不可 (© 3/10/2025 Nihonkai Consultant Co.,Ltd)
 14

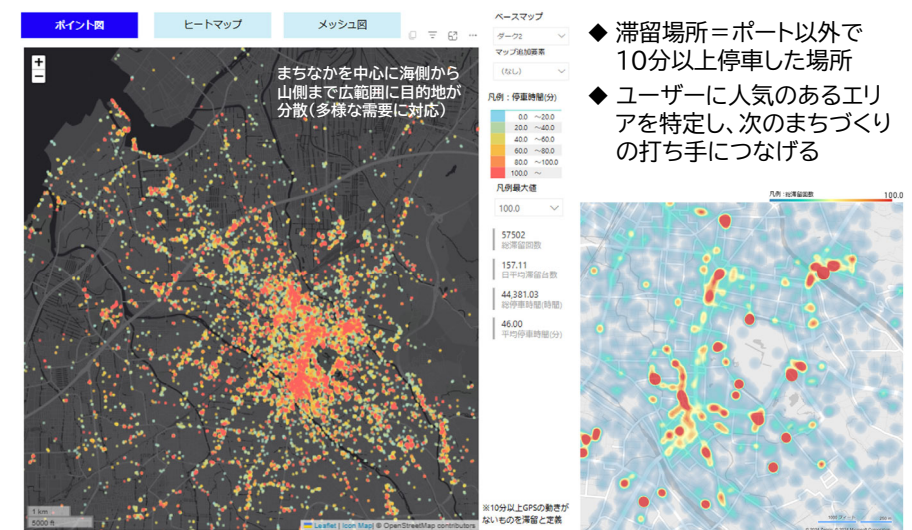
＜GPS分析（経路）＞ ※集計期間：2023.4.1～2024.3.31



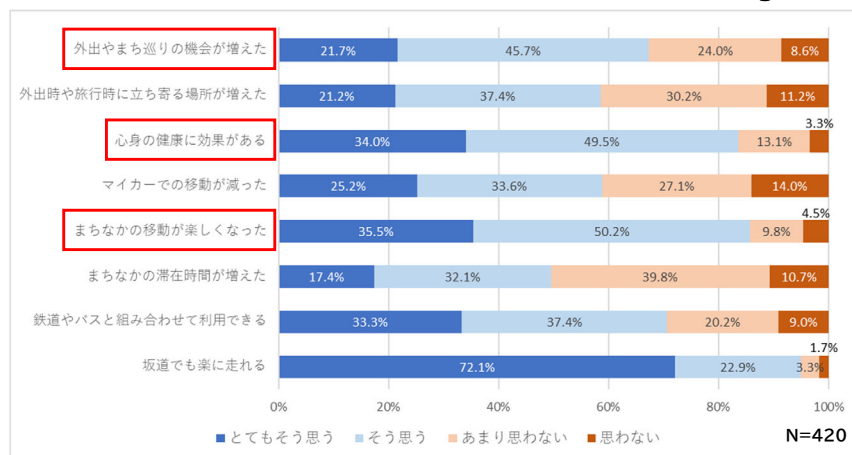
ビッグデータの取得・分析

転載不可(© 3/10/2025 Nihonkai Consultant Co.,Ltd) 15

<GPS分析（滞留）> ※集計期間：2023.4.1～2024.3.31



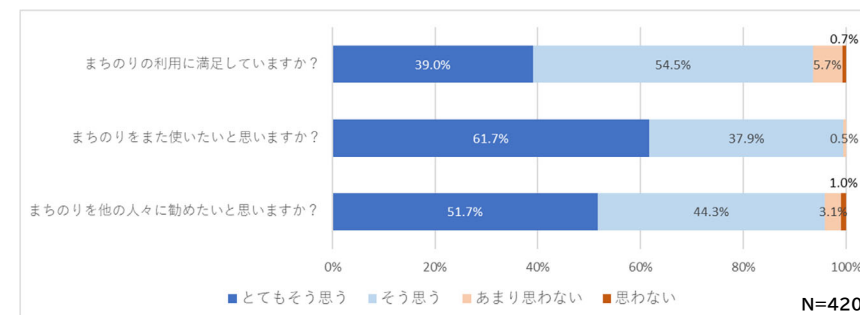
シェアサイクルは多面的な効果につながる 「心身の健康」や「移動の楽しさ」への貢献=人々の幸福度の向上 (Well-Being)



2021年10月 まちのり利用者アンケート結果(まちのり事務局)

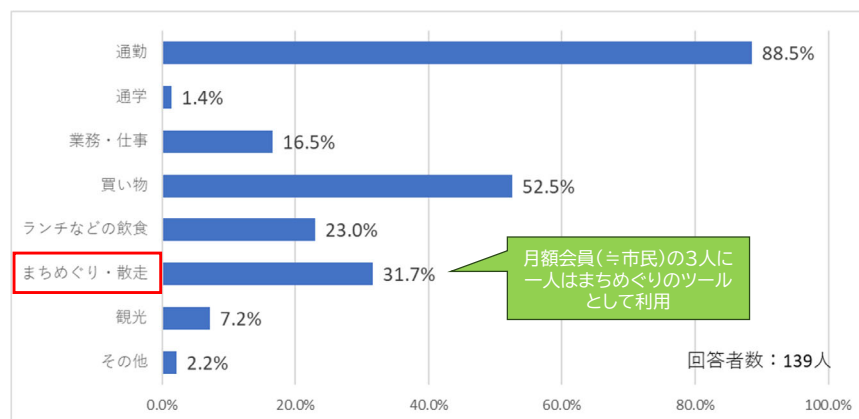
利用者の90%以上が満足・また使いたい・ 他の人に勧めたいと回答

自転車が日々の生活を豊かにしている可能性 (電動アシスト自転車の効用)



2021年10月 まちのり利用者アンケート結果(まちのり事務局)

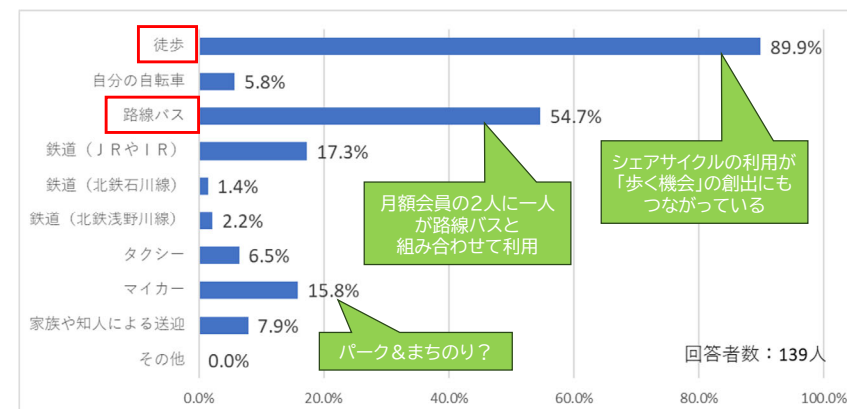
市民によるまちめぐりの需要を喚起 シェアサイクルを通じて、市民が金沢の良さを再発見する 機会につながっている可能性



2022年3月 まちのり月額会員アンケート結果(まちのり事務局)

多くの利用者が徒歩や路線バス等と 組み合わせて利用

シェアサイクルにより移動の距離や総量が増えている可能性



2022年3月 まちのり月額会員アンケート結果(まちのり事務局)

＜まちのりがあって良かったエピソード＞

- 普段は自転車をも所有していないので、家族で自転車で観光することがとても楽しかった。
- コロナ禍で運動不足でしたが、主人と2人で外出する機会が増えました。
- まちのりで兼六園まで行く途中に水引アクセサリーの店頭販売の前を通ったので旅の記念に購入できたり、ポートへ移動中に夏祭り開催の商店街があったので立ち寄れたこと。バスやタクシー移動なら出会えなかったです。
- 自由な時間が増えた。通勤の時間がリフレッシュの時間に変わった。
- 街中に向かう際、今まではマイカーだったが、まちのりの方が気軽に利用できるようになった。
- 天気の良い日はまちのりに乗ろうと思うようになった。
- 朝は雨だったのに夕方は晴れた…そんな時に、まちのりで帰ることが多いです。バスが少ないので、乗り過ぎた時も、バス停近くのポートですぐに借りて乗れるのが便利です。
- 車では普段はあまり通らない狭い道や住宅街の中などをまちのりで走ることで、こんなところに用水がつながっているんだなあーとか歴史を感じさせる街並みがあったりして、新たな金沢を知るきっかけになって嬉しいです。

2022年10月 まちのり利用者アンケート結果(まちのり事務局)、原文ママ

サービスエリア拡大社会実験（2023年度）

転載不可(© 3/10/2025 Nihonkai Consultant Co.,Ltd)

<目的>

- 多くの市民や学生が暮らすまちなか近郊エリア(金沢大学門前街)において、新規サービスエリアを設定・試行する。
- 利用履歴分析、GPS調査、アンケート調査を実施し、自転車やポートの増設による効果や課題を把握することで、今後のまちのり(シェアサイクル事業)のあり方検討の基礎資料とする。



サービスエリア拡大社会実験（2023年度）

転載不可(© 3/10/2025 Nihonkai Consultant Co.,Ltd)

<利用状況>

- 需要はまちのりの既存エリアと比較しても遜色なく、居住圏⇨まちなか、居住圏⇨大学といったシェアサイクルに期待される利用形態・効果を発揮。

<アンケート>

- まちのレポートがあることで自家用車の利用を抑止する効果は非常に高く、長期的な観点（自動車依存脱却→SDGsの促進）からみても高い効果が期待できる。
- 大学生をまちなかに呼び込むツールとしての効果が期待される。まちなかのさなる魅力（若者にとって）向上と合わせれば、中心市街地の活性化に繋がることも期待される。
- ただし、バスとの相互補充による公共交通全体としてのサバイスレベル確保が求められており、バス側の利便性改善も合わせて実施することが望ましい。

<運営面>

- 実験ポートによる再配置の負荷は、全体の中でも多く、運営負荷は高まっていた。
- 居住地エリアでは需要に対してポート容量が少なく、あふれやすく空車が発生しやすい状況が見られた。
- 実験エリア6ポートで最大100台程度の自転車が停車した状況が見られた。
- 既存サービスエリアを含めて、全体的には平常時と同程度のサービスレベル(空車率)は維持できていた。
- 既存エリアに悪影響を与えず常設とするためには、①自転車100台程度の増車、②ポート容量・密度の向上、③再配置人員の安定確保が必要。

サービスエリア拡大社会実験（2023年度）

転載不可 (© 3/10/2025 Nihonkai Consultant Co.,Ltd)

<収支>

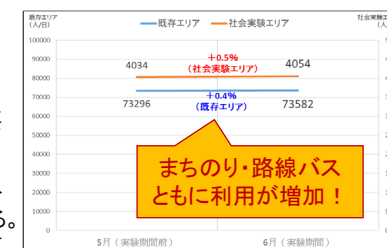
- 実験ポートの設置による収支を試算した結果、黒字※となった。
- 得られる収益については、運営面の充実をはじめ、自転車増台やポート密度増加など、サービスへの還元に充てることが考えられる。

※常設自転車を導入すると仮定した場合の試算であり自転車等のイニシャルコストは含まない。

※今回実際に実施したレンタル方式での試算では、自転車のレンタル料を含むと赤字になる。

<バス利用への影響>

- 社会実験エリアでは、5月(非実験期間)→6月(実験期間)でバス利用が約0.5%増加。既存サービスエリアでも約0.4%増加した。
- 今回の実験設置ポートは、公共交通重要路線(バス)周辺にポートを設置したが、バスの需要を奪うということにはなかった。社会実験エリアにおいてはバス単体でみても利用は減少しておらず、公共交通としてみればまちのり利用分が純増しており、相乗効果の存在が示唆される。
- 本実験の結果を踏まえると、他のエリアへの拡大検討においては、相乗効果の観点から、公共交通重要路線沿線が優先的に検討すべき条件の一つと考えられる。



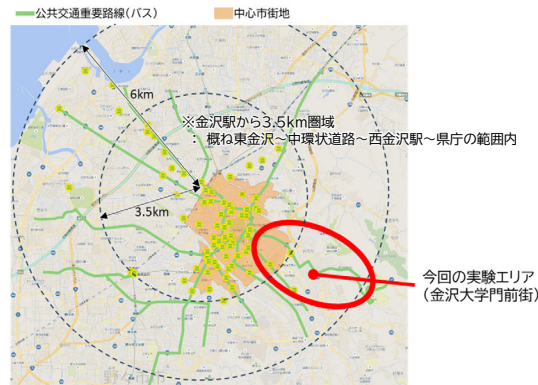
※バス停・まちのりレポートの両方があるエリアの
平日を対象に比較分析
※発着計・日平均にて算出

<まとめ>

- 社会実験の結果、**杜の里・金沢大学エリアは、「次期まちなり」のエリア候補として、公共交通全体の需要創出・自動車依存脱却（モビリティマネジメント）・まちなか活性化のいずれの観点からも、ふさわしい**といえる。
- 現在のまちなりサービスエリアからやや離れたところにあることから、運営への負荷はかかるものの、自転車増台・ポート容量または密度拡大・再配置人員確保等の対策により、エリア設定は可能と考えられる。

<エリア拡大の考え方>

- ✓ 本実験により、公共交通重要路線において、バス+まちなりの相乗効果により公共交通全体の利用の底上げが確認できた。
- ✓ エリア拡大に重要な要素は下記のとおり。
 - ①需要が見込まれる
 - ②公共交通重要路線・鉄道線と連携できる
- ✓ ただし、再配置の負荷が高まる金沢駅から3.5kmを超える範囲（例：今回実験エリア）については、今回のように+αの効果や政策的な位置づけを吟味する必要がある。



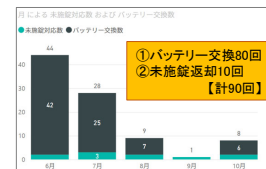
<目的>

- 「まちなり」の運営に関わることをきっかけとして、公共交通の利用促進やまちなかへの来訪促進を目的とする大学生が主体となり「すいっとモビリティプロジェクト」を立ち上げ。金沢大学の意欲ある学生7人がコアメンバーとして参画。
- 利用履歴分析、GPS調査、アンケート調査を実施し、自転車やポートの増設による効果や課題、大学生の意識の変化等を把握することで、モビリティマネジメントの可能性を探る。



<まちなりサポーター>

- 運営をサポートする大学生を募集し27人が参画。
- バッテリー交換や未施錠のまま返却できなくなっている自転車の解消を手伝うとポイントが付与され、1ポイント=1円でまちなり1回会員や月額会員の料金に使用できる。
- 期間中、計90回のサポート活動を実施。



まちなりサポーター大募集！

授業の合間や、まちなりで帰宅するついでなど、好きなタイミングで、ちょこっとお手伝いしてくれるサポーターを大募集！ お手伝いしてポイントをためると特典がもらえるよ！

◆募集概要◆

- ・実施期間：R6年6月3日（月）正午～11月30日（土）（6か月）
- ・応募資格：角間キャンパス内のポートでまちなりを使う予定のある学生
- ・募集人員：数十名程度
- ・作業内容：下の作業のうち、できることを、できるときだけ
- ・応募方法：①Formsの応募フォームに記入して送信（所属・学年・氏名・連絡先等）
②連絡先メールに送られてくる2つのQRコードで、サポーター用LINEオープンチャットと、ポイント管理のための専用アプリに登録すればOK！
- ・応募期限：5月30日（木）×切、5月31日（金）にQRコードをお送りします。

※応募状況により、2次募集を行う場合があります。

作業① バッテリー交換
大学の行き帰りなどに、バッテリー残量が「赤」の表示になっている自転車に乗り、本部棟に立ち寄って、バッテリーを交換して貰ったら、200ポイント獲得！

作業② 未施錠車の返却処理
まちなりの初期は、正しい返却処理をしていないことがあり、それだと課金が降りてしまったり、そこで、近くにいる人が返却処理してくれたら、100ポイント獲得！

まちなり

MACHINORI

機能を選んでください

未施錠返却

バッテリー交換

<第2期での大きな転換>

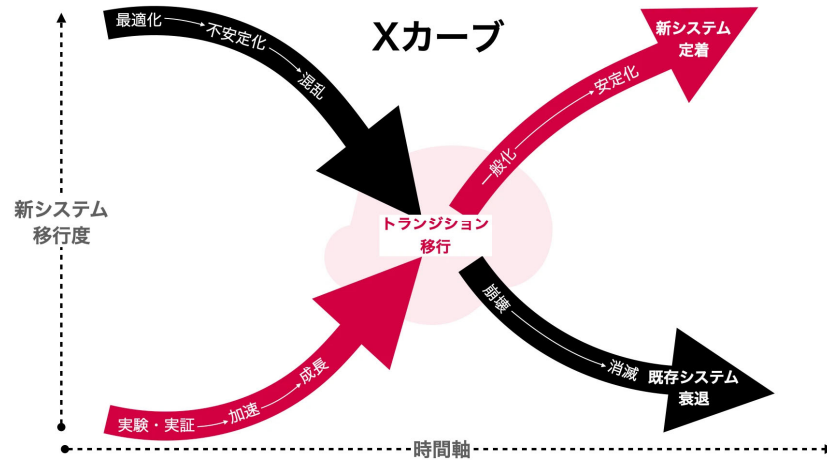
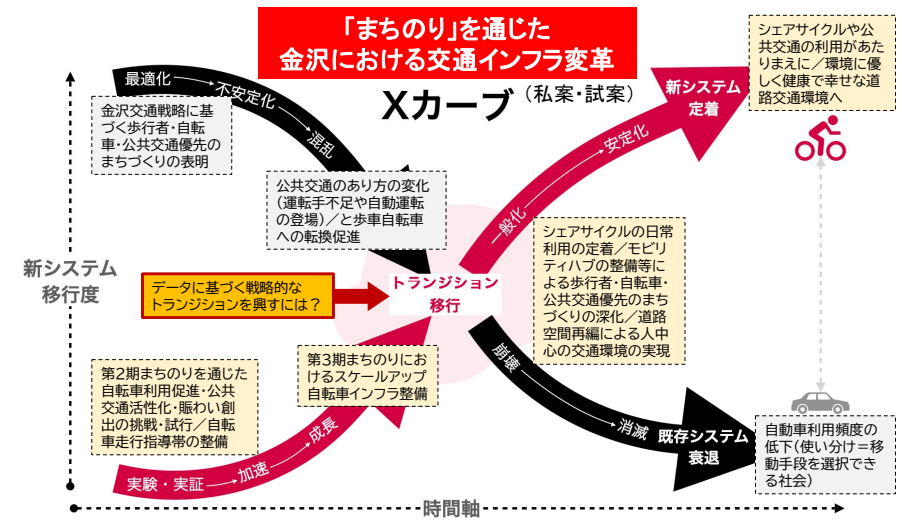
- サービス規模の拡大に伴い、観光需要だけでなく市民利用が激増し、通勤や通学的手段として定着。
- さらなる利用促進に向けて、まちなりを活かした拠点づくりやサイクリングツアーの造成などを試行。
- 金石・大野エリアを対象としたトランジション・マネジメント研究との連携（地域の変革に向けて行動できる主体形成の重要性）。

<今後のサービス展開に向けた試行>

- 金沢大学エリアを対象としたサービスエリア拡大社会実験を大学生モビリティマネジメントと一体的に実践することで、運営上は非効率で収益性が低いと思われる郊外部へのエリア拡大の可能性を確認。
- 単なる交通サービスの拡大ではなく、大学生の行動変容につながる取り組みを実践。
- シェアサイクルの移動軌跡を自転車ネットワーク路線の見直しに活用。

官民連携によるシェアサイクル事業を通じたエビデンスベースド・トランジション・マネジメント(EBTM)の可能性



出典: <https://comemo.nikkei.com/n/n80d37a49bcef>出典: <https://comemo.nikkei.com/n/n80d37a49bcef>

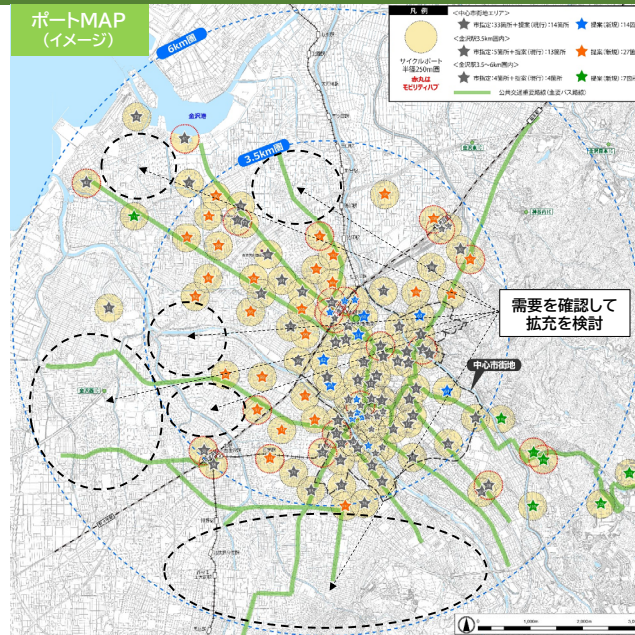
2024年度
500台/73ポート
サービス継続しながら
準備・協議・調整

既存ポートはほぼ継続
データに基づく需要予測
モビリティハブの提案

2025年度
サービス規模を
概ね1.5倍に拡大
(予定)

エリア拡大社会実験等
による需要の確認
(EBPM→EBTM)

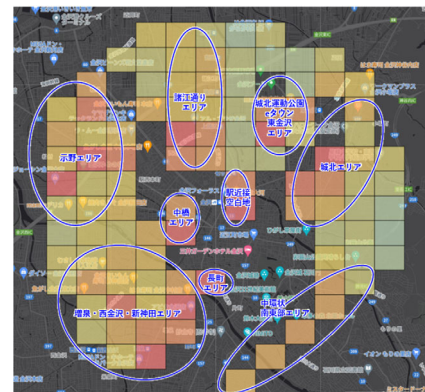
～2028年度
サービス規模の
さらなる拡大を目指す



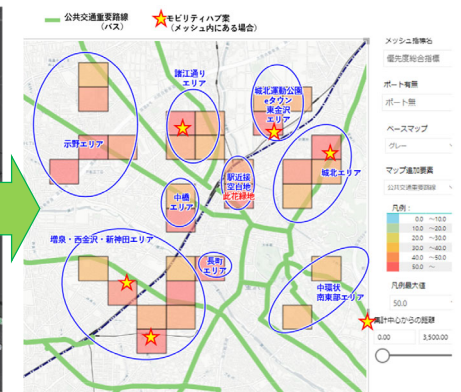
◆サイクルポート配置の考え方 (データ分析の概要)

- RESASの昼夜間人口、人流、施設分布、ポート数及び容量をもとに、機械学習によるまちのりの需要予測を実施
- 利用状況やGPSデータ、利用者アンケート結果を加味して「総合的優先度」を設定

▼金沢駅3.5km圏内における500mメッシュでの「総合的優先度」の分布

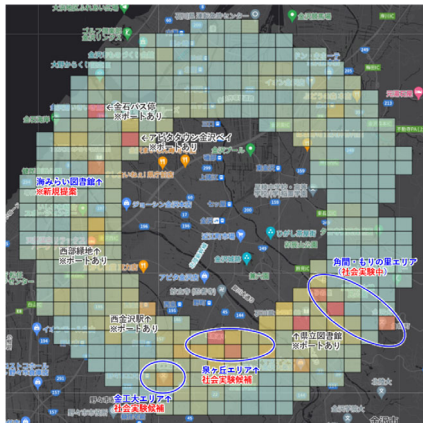


▼総合的優先度の上位30メッシュ＝「優先的に整備すべきエリア」に設定



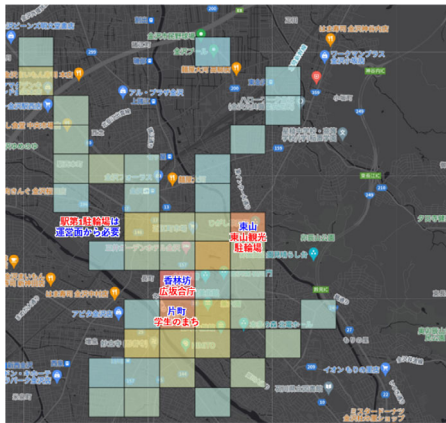
◆サイクルポート配置の考え方（データ分析の概要）

▼金沢駅3.5～6km圏内の500mメッシュでの「総合的優先度」の分布



- 角間・もりの里エリア(金沢大学エリア)は、社会実験でバスとまちのりの相乗効果を確認できたことから本格実施に移行。
- 上記以外で優先度の高いエリアは、エリア拡大社会実験を実施し、サービスエリア参入の妥当性を検証。

▼既存エリアにおける「逸失指数」(需要を取り逃がしている可能性の度合い)の分布



- 既存エリアの需要予測結果をもとに需要(日平均利用回数)×ポート空車率(24時間のうち自転車ゼロ台の時間が占める割合)＝「逸失指数」を算出。逸失指数の高いエリアではポート密度を高めることを意識して新規ポートを提案。

「まちのり」を通じて、 金沢の新たな“交通まちづくり”を展開

- シェアサイクル＋鉄道＋路線バスの新たな関係構築
- モビリティ(移動)＋アクティビティ(行動)＝MaaSの展開
- 自転車文化の普及＝人とまちの「身体性」を取り戻す挑戦
- 子どもたちに移動の楽しみ方を伝える取り組み

↑トランジション・マネジメントの考え方の実践



Thank you for listening
ご清聴ありがとうございました

